

# 子供主体の学びの探求

静西教育事務所

「子供が自ら問いを持てるようにしたい」「子供が自ら学び続けるようになってほしい」という子供主体の学びの実現に向け、真摯に授業改善に取り組む姿が学校訪問等で見られました。

その取組をさらに高めるために、静西教育事務所では「子供のよさや可能性を引き出し、子供主体の学びの授業を実現するためには何が必要なのか」を問い直し、「深い学びにつながる単元構想」と「学びを調整する力の育成」が改めて大切だと考えました。皆さんと一緒に、2つの視点をもとに「子供主体の学び」を考えていきましょう。



## 深い学びにつながる単元構想

育成を目指す資質・能力を明確にし、教材研究と子供理解を深めながら単元構想をしていきます。しかし、授業を進めていくと子供の学びが深まっていないことがあります。そのようなとき、単元構想や授業展開を修正・改善することが大切です。

子供が見方・考え方を働かせることができるような構想や展開でしょうか。



子供が追究したくなるような問いでしょうか。

## 学びを調整する力の育成

学びを調整する力は、学びを積み重ねていくことで徐々に育まれていきます。子供が学びを調整している姿は見えにくいものですが、教師が意識することで見えてくると考えました。例えば、学びを言語化しようとしている、他者との学びを活かそうとする、自己の変容を自覚しようとしている、教科等の学びの意義を知ろうとしているなど、子供の言動や学習の進め方の変容から見えてきます。そのためにも、子供一人一人に応じた働き掛けをすることが大切です。

子供は見通しや振り返りを自分の言葉で語っているでしょうか。



子供はよりよくなりたいという思いを実現しようとしているでしょうか。

未来に向け、自ら学び続ける子供に…

小学校 4年算数科「面積」：学びの姿から単元計画を見直す



授業開始、すぐに大型テレビにL字型の図形が映し出され、「あっ」「それ」「まだ、やり方を言っちゃいけないよ。」と次々に声が上がりました。教室は面積を求めてみたいという空気で包まれました。しばらくして「先生、3つくらいは方法がある」と声上がり、テレビに向かって子供の手が縦や横に動き出しました。手元のタブレット端末に同じ図形をかき、線を引いている子供もいます。前時まで学習したことを活かし、図形の見方・考え方を働かせながら活動する姿が見られました。



事後研修では、導入における子供の追究意欲が高まる姿や見方・考え方を働かせて取り組もうとする姿について、授業者がその経緯を語りました。「当初の単元計画は、正方形の求積の学習、L字型の図形の求積の学習、身の回りの図形の求積の学習という順で予定しましたが、数日前に身の回りの図形の学習、L字型の図形の学習の順に変更しました。それは正方形の求積の学習の際、教室にある長方形や正方形の面積を求めたいという子供の思いが高まっていたからです。その理由だけではなく、先に身の回りの図形の求積の学習に取り組むことで、長方形ではない形の面積を求めようとする姿も期待できそうだと判断したからです。」

事前に単元計画をしっかりと考えることは大切です。しかし、学習を進める中で子供の学びが途切れていないか、単元で目指す子供の姿に向かっているのかと立ち止まり、学び手の立場に寄り添い、柔軟に指導展開を合わせていくことも大切です。単元計画に戻り、子供の学びがつながったり深まったりするように構想を修正・改善した教師の姿でした。

中学校 1年理科「身の回りの物質」：学びの過程に働き掛ける

3つの白い粉末（ア 砂糖、イ 食塩、ウ デンプン）があり、粉末の正体を明らかにする授業です。計画から考察までの過程を子供たちに任せていきます。その中で、子供たちが自ら実験計画を立て課題を解決していききました。

実験後、子供たちは〈実験後の記録ノート〉（下左）のように記録をしていました。グループでの話し合いでは、共通点や相違点を見付けようと個々が発言しているだけで、結果を分析し解決するまでには至らない状況ではないかと教師は判断しました。そこで、「複数の実験結果が一目で見やすくなると、より分析や考察がしやすくなるね。」と働き掛けました。すると、子供たちは今までのノートを見直し、〈働き掛け後の記録ノート〉（下右）のような表を作成して整理を始めました。

ア 熱する→こげる	ア 溶かす→溶けた
イ " →白くなって割れた	イ " →溶けた
ウ " →こげる	ウ " →残った
ア 顕微鏡→つぶつぶ	ア におい→なし
イ " →角っぽい	イ " →なし
ウ " →さらさら	ウ " →なし
ア ヨウ素液→変化なし	ア 石灰水→白く濁る
イ " →変化なし	イ " →変化なし
ウ " →青紫色	ウ " →白く濁る

〈実験後の記録ノート〉



白い粉末	ア	イ	ウ
熱する			
溶かす			
顕微鏡			
におい			
ヨウ素液			
石灰水			

〈働き掛け後の記録ノート〉



このような子供と教師の関わりから、子供たちの思考に変容が見られました。教師の「一目で見やすくなる」という気付きを促す働き掛けにより、子供たちの中で複数の結果を整理し、統合して考察するという学びが起きたのです。

授業者に「結果のまとめ方を子供に任せただけではどんな意図ですか。」と尋ねました。すると次のように話してくれました。「教師が結果を整理するシートを用意することも考えましたが、今回はやめました。子供たちに自分たちのまとめ方は考察しやすいものなのかどうかを判断してほしいからです。考察しにくい場合には、これまでの実験のまとめ方を参考に、考察しやすいまとめ方にしようと工夫したり改善したりするのではないかと考えました。子供に全てを任せてしまうのではなく、今日の授業でも働き掛けが必要なグループには、気付きを促す声掛けをしました。」

子供たち自らの力で、実験結果を考察しやすいように整理できるようになってほしいという意図が伝わってきました。学びの過程で意図的に働き掛けることにより、子供の学びを調整する力を育成している教師の姿でした。